

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第53回『「多磨霊園の旅」

～ 内村鑑三、新渡戸稲造、南原繁、矢内原忠雄の墓～』

今日（2021年4月18日）、『多磨霊園の旅』が企画された（画像）。「多磨霊園」には、内村鑑三(1861-1930)、新渡戸稲造(1862-1933)、南原繁（1889-1974）、矢内原忠雄(1893-1961)の墓もある。所詮、我々には、「座布団一枚の墓場しから残らない」。「誕生から人生を見る」 vs 「死から人生を見る」の違いの学びである。筆者は、病理学者として、むなしさから出発する。自分を客観的に見る訓練である。「車の運転席から先を見るのではなく、空の上から見る視点」、「森を見て木の皮まで見る実践」である。「なくてはならないものは多くない、無くていいものに縛られるな！ 間違った方向に行くことに気をつけよ！」、つまり一言で言うと「ほっとけ 気にするな！」の心得である。

2003年に初版『われ21世紀の新渡戸とならん』、2018年に新訂版、2019年4月には英語版『I Want to Be the 21 st Century Inazo Nitobe』が発行された。若き日の筆者に強い印象を与えた言葉は、「ボーイズ・ビー・アンビシャス」(boys be ambitious) である。札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク(1826-1886)が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。クラーク精神が「内村鑑三、新渡戸稲造」を生んだ。その後、「南原繁、矢内原忠雄」にも繋がった。「東京医療利用組合新宿診療所」開設(1932)。1933年中野に移転し「東京医療利用組合中野組合病院」を開設。2015年「新渡戸記念中野総合病院」に名称変更され、筆者が順天堂大学医学部を定年退職(2019年3月)した年の4月に、「新渡戸稲造記念センター」が設立された。新渡戸稲造が初代理事長(1932年)を務めた「新渡戸記念中野総合病院」では読書(音読)会「新渡戸稲造 著『武士道』(矢内原忠雄 訳)が定期開催されている。理事長、病院長、副院長、看護部長、職員が出席され、筆者も、新渡戸稲造記念センター 長として出席している。来年(2022年)は、新渡戸稲造 生誕160周年である。記念シンポジウム『21世紀の医療の扉を開く～ 今、ふたたび新渡戸稲造！～』が企画される予感がする。「もしかすると、この時のためであるかもしれない。」(エステル記4章14節)であり、すべての始まりは「人材」である。



多磨霊園の旅

都立霊園の中で最大規模である多磨霊園は、日本初の公園墓地で、園内には著名人の墓所も多くあります。その中でも今回は、内村鑑三、新渡戸稲造、南原繁、矢内原忠雄の4名の墓所をめぐる散策会を開催します。

集合時間 4月18日(日) 午後2時

集合場所 多磨霊園 府中市多磨町4-628

多磨霊園正門 多磨霊園管理事務所前

アクセス 西武多摩川線 多磨駅より徒歩10分



タイトル

- ・雨天時は散策会は中止します。
- ・参加希望の方は阿部までご連絡ください。
- ・参加費は無料です。
- ・東京多磨霊園(町田市)は別の霊園です。お間違いのないようお気をつけください。
- ・京王線、JRをご利用の方は、正門まで距離がありますので、経路をよくご確認ください。



連絡先 715c61@gmail.com 阿部友香

集合場所は星マークの箇所です↑

